

ALES  
DYNAMIC  
ECO断熱遮熱  
工法

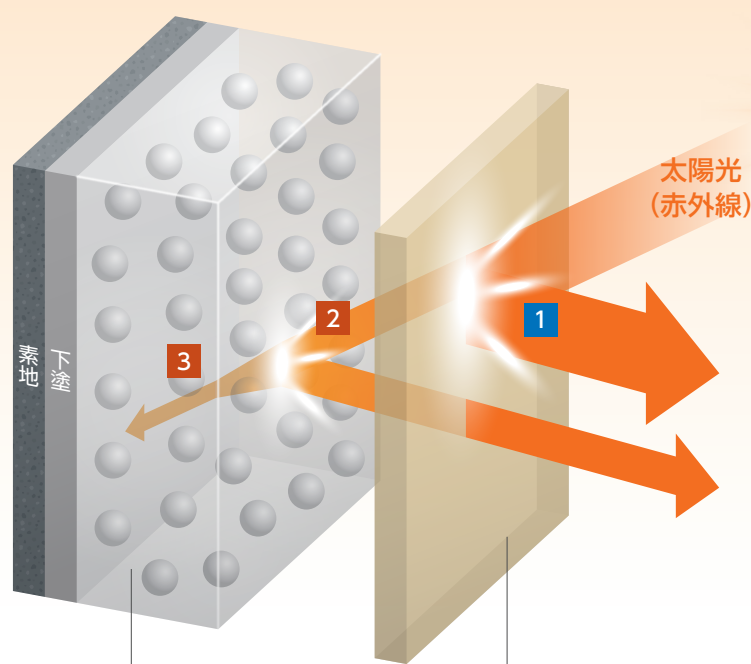
外壁用多機能形断熱遮熱システム

アレスダイナミックECO断熱遮熱工法

# 「断熱」と「遮熱」の組み合わせで暑さ対策に貢献

「赤外線」は、太陽光の中でも熱に変換されやすく、外壁に当たると素材表面の温度が上昇し、それによって室内温度も高くなります。「アレスダイナミックECO断熱遮熱工法」は『トリプルブロック技術』で赤外線の反射と熱の流入を抑制する断熱により、室内の温度上昇を緩和します。

## 『トリプルブロック技術』で赤外線による熱の発生を抑制



### 【中塗】アレスダイナミックECO断熱

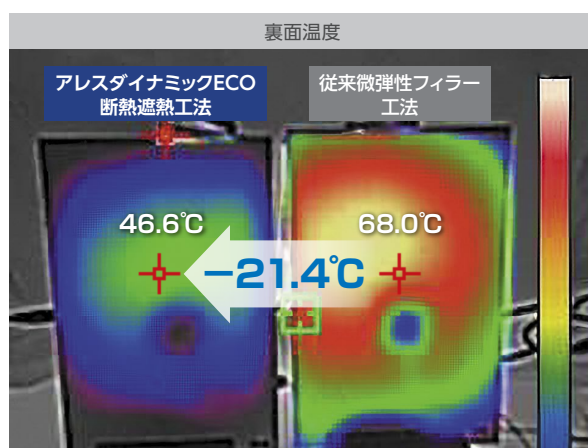
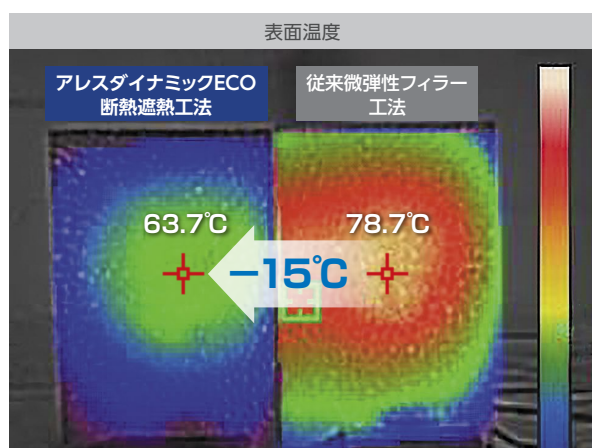
- 2 赤外線反射機能：上塗を一部透過した赤外線を反射
- 3 断熱機能：断熱機能により発生した熱の流入を抑制

### 【上塗】アレスダイナミックTOP遮熱

- 1 赤外線反射機能：上塗で赤外線を反射

## 断熱遮熱性能の効果をサーモグラフィーで確認

従来微弾性フィラー工法と「アレスダイナミックECO断熱遮熱工法」の塗板にハロゲンランプを照射して断熱遮熱性能の効果を確認しました(塗色:KP-367R)。遮熱機能で15.0℃の表面温度低減効果を、さらに断熱機能がプラスし21.4℃の裏面温度低減効果が確認されました。



## 『ラジカル制御技術』で建物を劣化から護る

「紫外線」を受けることで塗膜や素材は劣化し、建物に大きな影響を与えます。また「赤外線」による熱の発生は、塗膜劣化の要因にもなります。この2つの劣化要因を『ラジカル制御技術』と『トリプルブロック技術』で抑制し、大切な建物の外壁を長期保護します。



### ALES DYNAMIC ECO断熱遮熱 工法

「断熱×遮熱×ラジカル制御機能」搭載

『トリプルブロック技術』と『ラジカル制御技術』で  
「快適空間の創造」と「建物の長期保護」を両立

#### アレスダイナミックECO断熱遮熱工法のマルチ機能

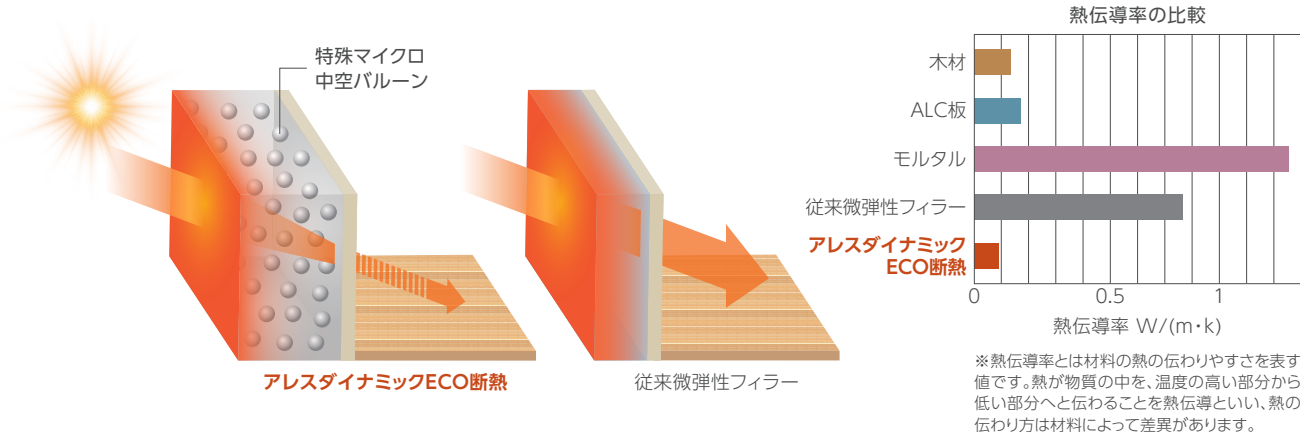


- 『トリプルブロック技術』で断熱遮熱効果を発揮
- 『ラジカル制御技術』の採用による最上位品ふっ素に迫る高耐候性
- 超低汚染で遮熱効果の低下を抑制
- 保温効果で壁内結露を軽減
- 柔軟性が高く、防水性に優れる
- 臭気の少ない水性塗料
- 艶の選択が可能  
[ つや有り、5分つや、3分つや ]
- カビ、藻が付着しにくい

# 断熱機能

## アレスダイナミックECO断熱は熱を伝えにくい

「アレスダイナミックECO断熱」に使用している『特殊マイクロ中空パルーン』が熱を伝えにくくする空気層をつくり、熱伝導率を小さくすることで、素材表面に蓄積された熱や外気からの熱を伝えにくくします。従来微弾性フィラーと比べ熱伝導率を極限まで小さくすることで優れた断熱効果を発揮します(当社比)。

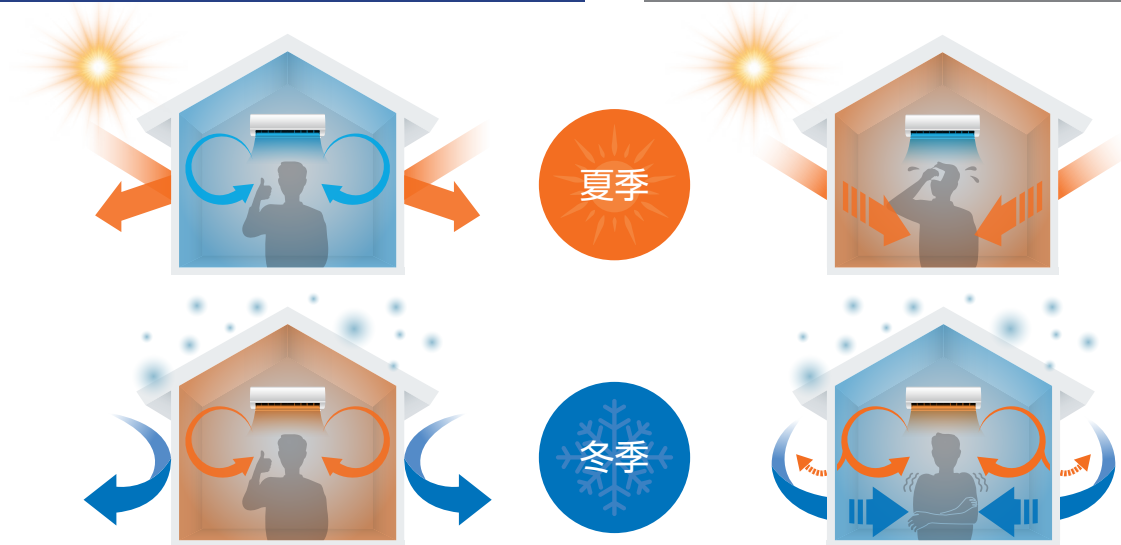


## オールシーズンで断熱効果を発揮

「アレスダイナミックECO断熱」の断熱効果で、夏季は外部からの熱を室内に伝えにくくするので涼しく、冬季は室内の熱が外部へ逃げるのを軽減します。

### アレスダイナミックECO断熱遮熱工法

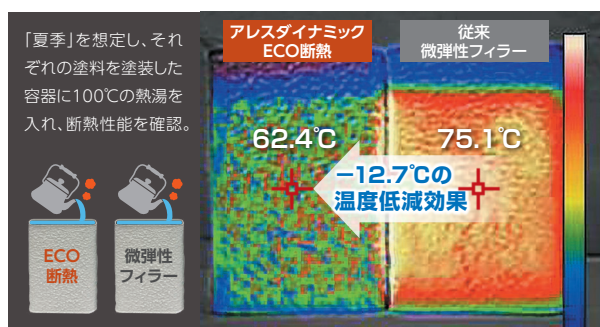
### 従来微弾性フィラー工法



### 断熱性能の効果を確認

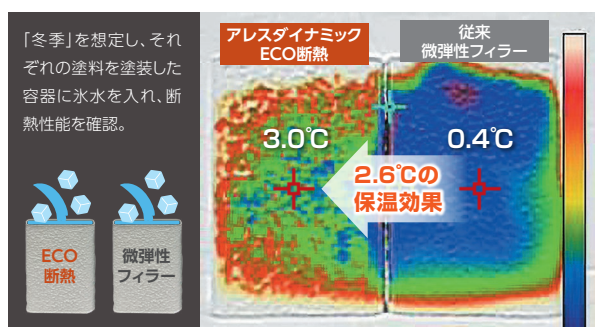
#### 100℃の熱湯での比較の結果【夏季想定】

100℃の熱い温度が、壁の反対面まで伝わり75.1℃まで温度上昇している従来微弾性フィラーと比較して「アレスダイナミックECO断熱」は、12.7℃の温度上昇を抑制できました。



#### 氷水での比較の結果【冬季想定】

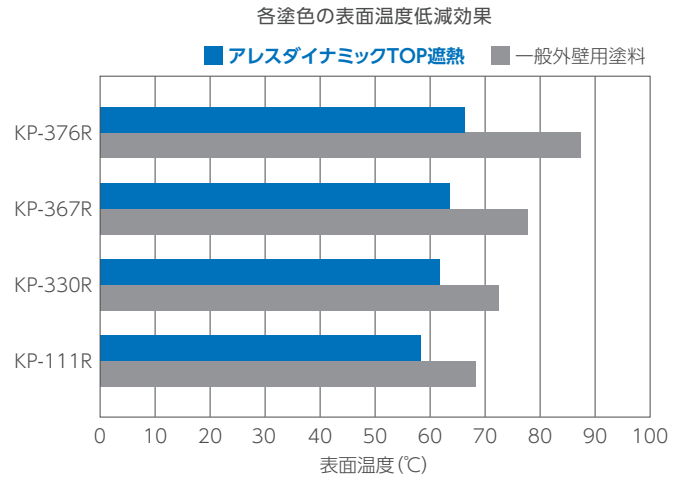
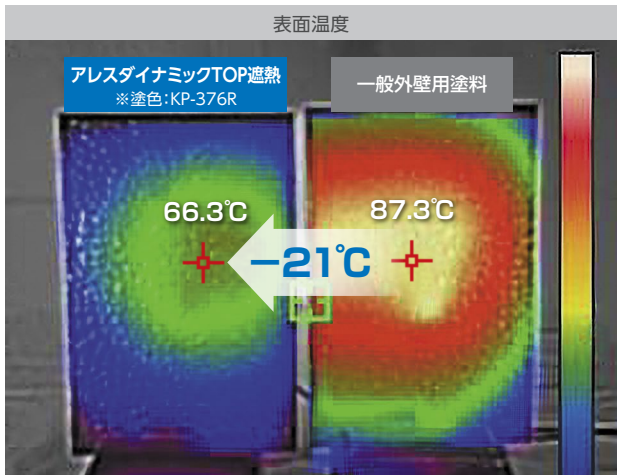
氷水(ほぼ0℃)の冷たい温度が、壁の反対面まで伝わっている従来微弾性フィラーと比較して「アレスダイナミックECO断熱」は、2.6℃の保温効果を発揮しました。この結果、屋外への熱の放出軽減が期待できます。



# 遮熱機能

## 遮熱性能の効果を確認

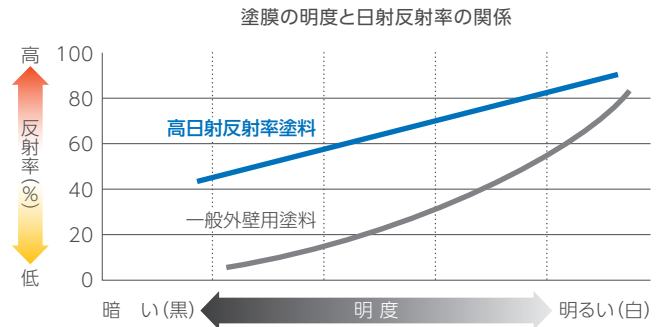
一般外壁用塗料と「アレスダイナミックTOP遮熱」の塗板にハロゲンランプを照射して遮熱性能の効果を確認しました。



## 大切なのは色と熱の関係

上塗の「アレスダイナミックTOP遮熱」は、特殊顔料を使用しているためどの色でも、同じ色同士を比較すれば一般の塗料より効率よく赤外線を反射します。

色によって日射反射率は違いがあり、暗く濃い色ほど反射率は低くなり、明るく薄い色ほど日射反射率は高くなります。遮熱効果の高さがひと目で分かるように独自の「COOLレベル」を表示しています。外壁の色選びにお役立てください。



# マルチ機能

## 超低汚染で汚れにくい

独自の緻密・強靭塗膜形成技術による低汚染機能が建物の美観を維持します。また汚れによる遮熱効果の低下を抑制し、性能の長期維持を図ります。

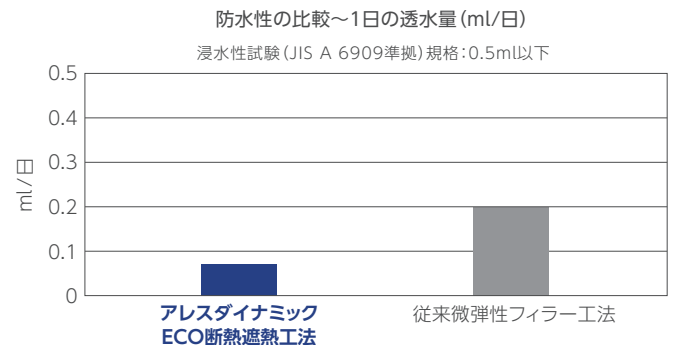


## 優れた防カビ・防藻性

中塗、上塗に防カビ・防藻剤を配合。塗膜全体でカビ・藻の付着を抑制し、持続性に優れます。

## 高い防水性

外からの雨水に対して従来微弾性フィラー工法以上の防水機能がありますので、安心してご使用いただけます。



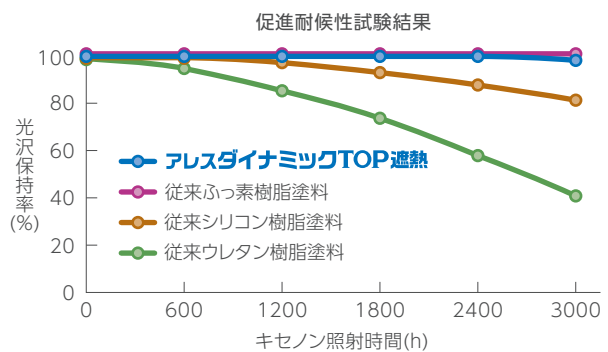
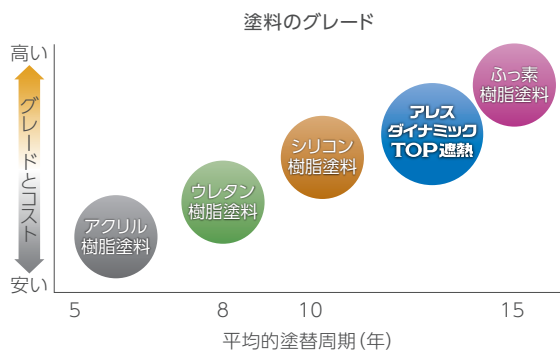
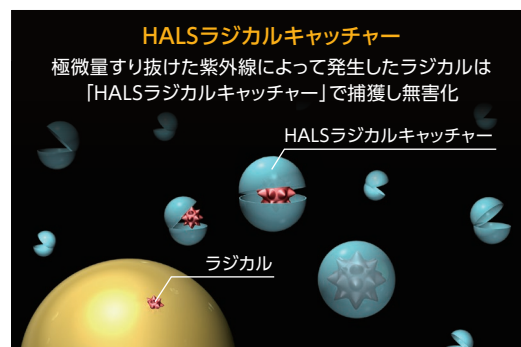
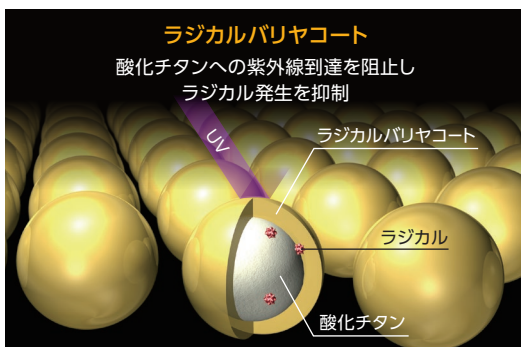
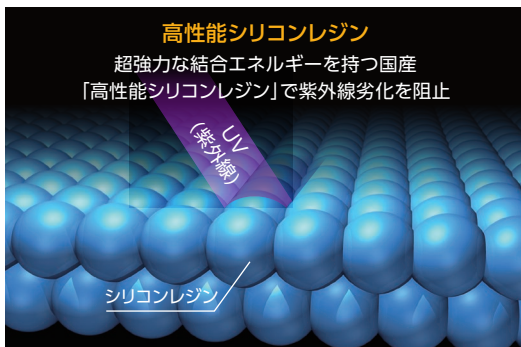
## 壁内結露を軽減

構造木材を水分から守り、様々な効果を発揮。壁内断熱材の含水によるズリ落ちの抑制や木部の腐朽、カビ・ダニやシロアリの発生などを軽減し、内断熱工法 (RC造) や充填断熱工法 (木造) の性能補強につながります。

# ラジカル制御機能

塗料の主成分のひとつ「酸化チタン」に紫外線が当たることにより発生する物質「ラジカル」は、塗膜を破壊し劣化を促進させます。「ラジカル制御技術」は4つの技術で、この塗膜劣化の原因物質の発生を抑えることで、塗膜の耐候性を飛躍的に向上させます。

動画でチェック



## アレスダイナミックECO断熱遮熱工法 標準塗装仕様

<b>上塗</b> アレスダイナミックTOP遮熱 荷姿: 15kg, 4kg 艶: つや有り, 5分つや, 3分つや	<b>中塗</b> アレスダイナミックECO断熱 荷姿: 10kg	<b>下塗</b> ・アレスダイナミックシーラーアクア 【15kgセット】ベース12.5kg, 硬化剤2.5kg (ベース: 硬化剤=5:1) ・エコカチオンシーラー 荷姿: 15kg
--	--------------------------------------	---

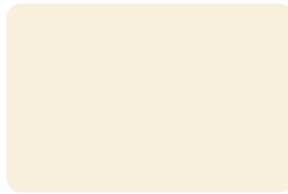
**適用下地** コンクリート・モルタル・ALC・各種旧塗膜・窯業系サイディングボード

工程	塗料名・処置	荷姿	塗装方法	塗装回数	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	希釈率 (重量%)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。窯業系サイディングボードの場合、欠損、シーリング材の劣化部などは適切な処置を行う。						
下塗	アレスダイナミックシーラーアクア 上水	ベース: 12.5kg 硬化剤: 2.5kg	ハケ・ローラー	1	0.13~0.20	0~10	4時間以上7日以内
中塗	アレスダイナミックECO断熱 上水	10kg	多孔質ローラー	2	0.7~1.00	0~5	4時間以上7日以内
上塗	アレスダイナミックTOP遮熱 上水	15kg 4kg	ハケ・ローラー	2	0.12~0.14	3~8	2時間以上7日以内

※標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態、塗装方法、環境などによって増減することがあります。



KP-111R ① ② ③ ④ ⑤



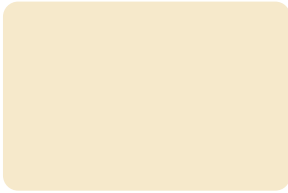
KP-110R ① ② ③ ④ ⑤



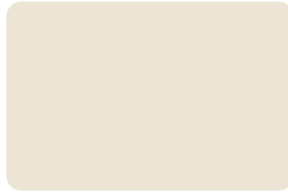
KP-112R ① ② ③ ④ ⑤



KP-223R ① ② ③ ④ ⑤



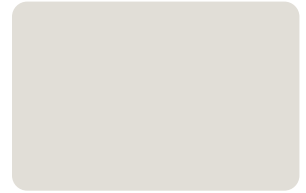
KP-310R ① ② ③ ④ ⑤



KP-121R ① ② ③ ④ ⑤



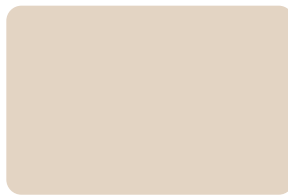
KP-133R ① ② ③ ④ ⑤



KP-221R ① ② ③ ④ ⑤



KP-120R ① ② ③ ④ ⑤



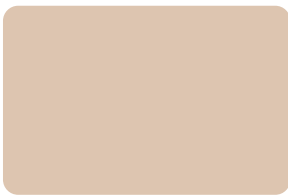
KP-127R ① ② ③ ④ ⑤



KP-80R ① ② ③ ④



KP-337R ① ② ③ ④ ⑤



KP-336R ① ② ③ ④ ⑤



KP-330R ① ② ③ ④



KP-147R ① ② ③ ④



KP-350R ① ② ③ ④



KP-75R ① ② ③ ④



KP-347R ① ② ③ ④



KP-70R ① ② ③ ④



KP-356R ① ② ③ ④



KP-357R ① ② ③ ④



KP-368R ① ② ③



KP-50R ① ②



KP-367R ① ② ③



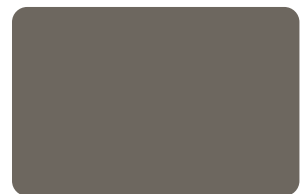
KP-167R ① ② ③



KP-376R ① ②



KP-379R ① ②



KP-170R ① ②

COOLレベル

日射反射率\* ① ② ③ ④ ⑤ …80%以上 ① ② ③ ④ …70~80% ① ② ③ …60~70% ① ② …50~60% ① …50%未満

\*一般外壁塗料との日射反射率の比較は「塗膜の明度と日射反射率の関係」のグラフをご参照ください。※この見本は印刷のため、実際の色とは異なります。色合わせの目的には使用できません。※反射率数値は「JIS K 5602 塗膜の日射反射率の求め方」に準拠し、日射反射率(近赤外線域)を実測しています。※日射反射率は下地の状態や塗装仕様、施工条件などにより多少の増減が生じます。

## 施工上の注意事項

- 本注意事項及びにご使用になる下塗・上塗のカタログに記載の注意事項を必ずご確認くださいの上、塗装を行ってください。
- 本品は屋根への適用はできません。
- 金属サイディング面及び弾性スタッコ面への塗替えには適用できません。
- 塗替え、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風のない環境では、ふくれ、はがれ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装をさせていただきます。
- 絶えず結露が発生するような用途・場所での使用はさせていただきます。溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- 可塑剤が多く含まれる部材(塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など)への塗装はさせていただきます。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
- 蓄熱しやすい素材(軽量モルタル、ALC、高断熱型窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を用いた「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシンや弾性スタッコ、アクリルトップ等の場合、そのまま塗装すると環境条件によっては水や湿度の影響で塗膜が膨れたり、はく離が生じることがありますので、旧塗膜は完全に除去してください。
- 水性パテ(合成樹脂エマルジョンパテ)は耐水性が劣るため、外部や浴室壁面等に使用すると、早期に塗膜はく離が生じる可能性がありますので使用しないでください。
- 気温5℃以下(低温)、湿度85%以上(高湿)での施工はさせていただきます。
- 屋外において降雨、降雪、強風のおそれがある場合は塗装をさせていただきます。
- 塗装間隔は環境(温度、湿度、換気回数等)や膜厚によって変わります。
- 所要量、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。
- 結露が発生する場所では、塗料中の微量の水溶性成分が表面に溶出し粘着物となって析出することがあります。粘着物は水拭きや水洗で除去してください。
- 塗面に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化やつや引けなどの異常が生じやすくなります。山間部や河川近辺などの夜露の早くおりの多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
- 躯体含水率が高い場合、断熱機能が十分でない場合、断熱機能が十分でない結露の多い建物・換気効率が十分でない建物・漏水箇所の上水処理が十分でない場合、居住者の方の生活環境などの違いで、塗膜の持つ透湿性能以上の水蒸気量が発生するケースでは、塗膜にふくれが発生することがあります。
- 塗装仕様に記載の塗装間隔は、屋外で気温23℃の条件を想定しています。低温時や屋内等で十分な換気ができない場合は、塗装間隔が長くなることとなりますのでご注意ください。
- 塗装仕様書に記載の数値は標準のものですが、被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅を生じることがあります。
- 塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行なってください。
- 適用可能な旧塗膜は下地との付着性に問題なく、活膜であることを条件としています。活膜下地条件(付着強度が0.7N/mm以上)。
- 旧塗膜に光沢が残っており劣化していない場合には付着不良や塗り重ねがちみが発生する場合があります。旧塗膜表面の目荒らしを行い、試し塗りによって確認のうえ塗装を実施してください。
- 吸い込みの著しい下地では「浸透形Mシーラー」「アレスタイナミックシーラーマイルド」を推奨します。
- 吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗付量が多く乾燥が遅くなりますので塗装間隔を長めにとってください。また、上塗までの塗装間隔が規定よりも短い場合、ちみ、割れ、乾燥不良を起こすおそれがありますので注意してください。
- 被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率の差などにより、実際のつやと若干異なって見える場合があります。また塗替え時つやむらを生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
- 吸い込みのばげしい被塗物の塗り替え時はシーラーを塗装後にガムテープで基材との密着性を確認し、はがれが生じる部分は塗膜をはく離し、その部分に再度シーラーを塗付してください。
- 無機系樹脂、光触媒処理、ふっ素樹脂、シリコン樹脂など特殊な樹脂で処理された窯業系サイディングボード面に塗装する場合は、下塗材として「アレスタイナミックシーラーマイルド」をご使用ください。なお、事前に試し塗りし付着性を確認してください。付着性に問題がある場合は、目荒らしを行ってください。
- 新設建材が押出成形セメント板やGRC板の場合には、下塗を「浸透形Mシーラー」または「アレスタイナミックシーラーマイルド」をご使用ください。
- シーリング打設幅が広く、構造上大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますのでご注意ください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、伸縮割れ、粘着などの不具合が発生することがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、本製品に対して塗装適合性のあるノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全に硬化した後に行ってください。また「マルチタイルコンクリートプライマーEPO」シーラ「アレスタ水性エポキシ」を下塗とすることで、可塑剤移行による汚染、粘着の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、伸縮割れが起こることがあります。
- シーリング面は、塗膜が汚染・はく離・収縮割れを起こすことがあるため、マスキングテープなどで養生を行い、塗装をさせていただきます。シーリング材を打ち替える場合は、後打ちとし、可塑剤(油分)を含まないノンブリードシーリング材をご使用ください。
- 補修塗り用として使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- 補修塗りの際は、塗装方法や凹凸の違い等により、仕上がり性に若干の差を生じる場合がありますので、部分的に試し塗りをした上で希釈率等を決定してください。
- ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- 塗装方法により色相が変化する場合がありますので、一般部がローラー塗りの場合はできる限り入り隅まで入れてください。

- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上がりに色相に多少差が生じます。
- 水性塗料を塗装する場合はナイロンはけを使用してください。獣毛はけは固まったりだまになりやすいので使用しないでください。
- 被塗面の洗浄に薬剤を用いた場合、水洗を入念に行ってください。被塗面に薬剤が残存したまま塗装すると、塗替え後の塗膜にふくれ、はがれ、白化等の異常をきたす場合があります。水洗後pH10試験紙を用いて被塗面が中性になっていることを必ず確認してください。
- 塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合には塗膜はく離の原因となり、光沢不足や色むらが発生するなど異常を生じるおそれがあります。
- 改修時の既存塗膜はく離箇所は、予め既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 改修前に、漏れ、ひび割れが認められる場合は、予め要因となっている箇所への防水処理、ひび割れ補修を行ってください。
- 新設コンクリート面に塗装する場合、pH10以下、表面含水率10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、又は表面含水率5%以下(ケット科学社製H500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)まで十分乾燥させてください。
- 水洗直後は下地表面の含水率が高くなりますので、十分に乾燥(含水率10%以下:ケット科学社製CH-2型で測定した場合)させた後に塗装してください。
- コンクリートの目違い、ジャンカ、コールドジョイント等は、樹脂入りセメントモルタルで平滑にし、表面のごみ、ほこり、エプロレッグ等、レイタンスなどの汚れを除去後、塗装を実施してください。
- 被塗面にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
- 塗装前の部位にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、はじきや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。
- 養生テープのとり外しの際、厚膜材や弾性タイプの塗膜は切れにくいので、カッターナイフ等を用いて取り外してください。
- 屋外での施工中、施工後間もなく、気象の急変により降雨が生じた場合はシート養生などを行い、塗膜面に直接雨がからないように対策してください。
- 塗装ダストなどの飛散防止、塗装面以外への付着防止のため必ず養生を行ってください。
- タイル洗浄薬剤が塗装面に付着した場合、塗装面の変色や早期劣化を生じることがありますので塗膜面の養生を行ってください。
- 防カビ防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、これら効果が十分に発揮されない場合があります。
- 塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それ以降は同じ希釈率で塗装してください。
- 規定範囲を超えて希釈すると、はじき・光沢低下・色味変化・だれ・隠蔽力不足など仕上がり異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- はけやローラーを共用するとはじき等が発生する場合がありますので、製品ごとに専用とするか、十分に洗浄後よく乾燥させたうえでご使用ください。
- 塗装用具などは、塗料が乾燥しないよう固まらないうちに洗浄してください。水で落ちにくい場合水性アジャストラッカーシンナーを用いて洗浄してください(多孔質ローラーはシンナーで洗浄すると膨潤しますので、ご注意ください)。
- 材料は使用前に内容物が均一になるように十分にかくはんし、開栓後は速やかに一度に使い切り、使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。
- スプレー塗装を行う場合は、塗装ミストによる汚染防止のために特に十分な養生を行なってください。
- 開栓後、缶内に塗料が残ったまま放置すると、表面から水分が蒸発し皮膜や固化ブツが発生し、再度使用できなくなります。休憩時間など使用しない場合はポリエチレンシートで塗料表面を覆うなどし、対策をってください。
- 濃彩色仕上げの際、雑巾ウエス等で強くこすると、色落ちやつや変化が起こる場合がありますので、衣類などが触れる可能性がある部位への施工はさせていただきます。
- 本品を塗装の際は、中塗や上塗に塗り残しや透けがないようご注意ください。塗り残しや透けがある場合、紫外線の透過によりシーラー塗膜が紫外線劣化を起し層間ではく離が生じるおそれがあります。
- 遮熱塗料は遮熱効果を発揮させるため特殊な顔料を使用しています。また、中塗塗色は機能面から白色であるため、上塗の塗付量が少ないと隠蔽性が不十分、本来の仕上がりや発色性が得られません。塗装の際は透けやすれがないように注意してください。
- 鮮やかな赤系、黄系、青系、緑系の色で仕上げる場合は、隠ぺい性の良い共色で予め下塗してから塗装を行ってください。
- つや調整品を仕上げる際は、塗り継ぎ部をつくらぬよう注意し、面を切って、通し塗りを行ってください。
- つや調整品は、高温などの乾燥が早い環境下ではつやむらが生じやすくなります。特に被塗面が直射日光で熱せられ高温になると塗膜の形成肌の凹凸が増え、さらに塗膜厚が不均一になりやすくなるためつやむらが生じやすくなります。
- つや調整品は、使用中において塗料に含まれるつや消し剤が沈降しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
- 遮熱塗料は、特殊な顔料を使用しているため、経年による変退色の傾向が一般塗料と異なり、経年で若干ながら茶褐色の色味を帯びることがあります。しかし、遮熱性能や素材の保護性能への大きな影響はありません。
- 遮熱塗料は特殊な顔料を使用しているため、一般塗料に比べ塗料表面に特殊顔料が浮きやすい傾向にあります。オートマゼール等を用いて十分にかくはんし、塗料を均一にした後ご使用ください。

## ご使用上の注意事項

- 下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護めがね・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・ネリ巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 本品の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。
- 目に入った場合:直ちに、多量の水で流すとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合:直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。

- 対 応
- 吸入した場合: 空気清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 保管
- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 廃棄
- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと)。
- 廃棄
- 本品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡の場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うよう指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンチン塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

## 関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ  
www.kansai.co.jp



お近くの営業所は  
こちらから!

各種カタログご覧になれます。

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご諒承ください。

(24年08月01日PKO) カタログNo.972